

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第1号

令和6年 7月3日

横浜市小学校教育研究会

会長 沼田 留美子

横浜市小学校社会科研究会

会長 高畠 聡

同 学年部長 八木 浩司

【提案日時】

7月 3日 (水)

提案 名畑 慧大 先生 (原小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 佐々木 貴弘先生 (鴨居小)

記録 宮下 洋光 先生 (南舞岡小)

1 提案内容

単元名「水はどこから～安全な水道水を届け続ける水道局の取り組み～」

2 提案者より

視点①について…調査をどのように行うかを考えた。

(1) 生活の中で実感をもたせるように、水道料金を調べさせた。そこから、水を中心に分かることをウェビングでまとめ、「水を使う場面が多い」ことに気づき、学習問題を作っていた。

また、教室に蛇口を置き、ひねっても水が出ないことを確認し、「いったい水はどこから来るのか」という疑問につなげるようにした。

(2) グーグルアースで取水ぜきの水を見せる。そうすると、にごっている水に気づき、「にごっている水がどのようにして透明になる？」という疑問をもてるようになる。

(3) 取水ぜきから小雀浄水場までの通り道が遠回りになっていることにも触れ、水の安定した供給につなげるようにした。

(4) ろ過の実験を通して、砂が大切なことに気づかせた。

視点②について…座席表に、子どもの考えをみとったものをまとめ、次時で活用するようにした。

振り返りを書く視点を10個例示し、子どもが何について・どんなことを振り返ればよいか見通しをもてるようにした。

課題…子どもたちから出た学習問題を全て取り上げることが難しかった。どこまで取り上げれば良かったのか。また、一時間一時間でとぎれることもあった。どのように学習問題をつなげ、問題解決的に学習を進めれば良かったか。

本時では、メダカのことになった。メダカを使った検査の仕組みによってしまい、話の意図や人の営みにまでたどり着けなかった。

3 協議会

① について

体験の良さが学習に生きた。子どもが必要だと思うところや普段見えないところが見えるようになった。知識として知っている子どもたちにも関心を高める体験ができたのではないか。

主体的に学び続けるには、子どもが出してくる考えや問いだけだとうまく行き辛いか。教師の意図で調整していく必要がある。

学ぶ内容で、「現代にいたるまで」とある。今の子どもたちは現在の安定した供給しか知らないのでは。宮ヶ瀬ダムのことにも触れ、いかに計画的にやっているのかを知る必要があったのではないか。

水道料金の扱いについては、個人情報に気を付けた方がよい。

事実なのか、考えなのか。板書で整理するために、「～かも」の語尾で分けていってもよい。

② について

前時までも仕組みに寄った内容だった。メダカという教材が、とても魅力的だったから仕組みに寄ってしまったか。メダカに注目しつつ、そのメダカを使っている人に注目できるとよかったかもしれない。また、学習課題を「なぜメダカを使ってまで検査をしているのか」とすると、人の営みにも迫れたかもしれない。

<講師の先生より> 黒木先生

グーグルアースやろ過など、具体的で良い。指導案の計画がとても良い。誰にでもできる提案になっている。抽出量を設定し、毎時間みとり、生かしながら、授業にのぞんでいるところも良い。

「本気の学習問題」は、今回の実践のように安心して飲めることに注目したのも良いが、安定供給の視点にも触れていくと、子どもの問題意識が広がり、今回の実践とは違った展開の本気の学習問題がうまれる可能性もあったかもしれない。能登の地震で困っているのは「水」と聞く。横浜市の水道管は地震対策も十分になされている。なので、地震への備えに触れてみてもよいかもしれない。

貴重な水がどこから来ているのかを考えるのはとても良いこと。神奈川県との学習とつなげて考えるようにしていきたい。

文責 宮下 洋光 (南舞岡小学校)